

平成 15 年 1 月 31 日

医療機器産業ビジョン骨子（案）に対する提言

メリルリンチ日本証券株式会社
調査部 ファーストヴァイスプレジデント
シニアアナリスト 三好昌武

= ビジョン案全体を俯瞰して =

1. 医薬品産業と同様に医療機器産業は、わが国が得意とする知的集約型産業であり、その将来発展に向けた方向性を政府自らが指し示そうとする努力は高く評価したい。
2. セグメント化され、それぞれに異なる市場成熟度、成長性を有する当産業を包括的に纏めたその内容は、当産業界からも一定の評価を得るだろう。

= ビジョン案の細目について =

1. 特定分野を限定した重点的支援のあり方(P.7) ~ 何に重点投資すべきか？

< 医療機器産業の長期サイクル >

1970-80 年代	90 年代	2000 年代	2010 年代 ~
ディスク 注射器・針	ダイアライザー 画像診断/ME 機器	ペースメーカー ステント等インプラント 人工関節	再生医療 バリエーション系人工臓器 アフレキシ
成熟/ロ-コスト生産	安定/日本企業	高成長/外資系	潜在/技術余地拮抗

- ~ 既に基本技術が確立され高成長にある分野での応用研究を国がやるべきか？
- ~ 次世代に勝ち得る基礎技術基盤の確立に重点投資すべきと考える

2. 厚生労働省における取り組み（省内、関係省庁）(P.6)

- ・ 5-10 年をフォーカスする産業特性 vs. 「単年度」「予算」主義の国家会計
 - ~ 単年度会計制度における特例的措置
 - ~ 「実績（使途、成果）」の外部公表
 - ~ 「作るとき」だけでなく「その後の継続的連携」がより重要
- ・ PL 法の特例的運用に対する働きかけ
- ・ 臨床試験環境のいっそうの整備---医薬品の環境整備は進展しつつあるが...
- ・ 承認審査体制の早期拡充---材料価格改定財源の弾力的活用

3. 企業における取り組み(P.6)

- ・ 保険償還価格に守られた経営体質からの脱却
- ・ 多くの企業には自社技術力の再評価と先進技術取り込みへの具体的なアクションが必要---ポートフォリオ的投資発想への転換
- ・ 生命関連産業であるという自覚---行政措置のいっそうの強化

4. 金融の支援

- ・ グローバルにみた場合、優良なバイオベンチャーへの投資意欲は非常に旺盛
- ・ ただ日本の金融機関系 VC と海外の VC 及び PE(プライベートエクイティ)で状況は異なる

以上